

慶應義塾のこの1年

塾員の皆さんにもお送りしている「社中特別号」にあたり、2025年にあつた主な義塾のニュースをまとめました。各ニュースの詳細やその他の最新のニュースは、義塾ウェブサイト (<https://www.keio.ac.jp/>) 等で確認できますので併せてご参照ください。

公式YouTubeチャンネル、「銀の盾」を受賞

1月、慶應義塾公式YouTubeチャンネルが登録者数10万人を突破し、日本の私立大学として初めてシルバークリエイターアワード、通称「銀の盾」を受賞しました。多くの方々に親しまれながら、今後も慶應義塾の多彩な教育・研究・医療の魅力を発信していきます。



慶應義塾公式
YouTube はこちら



伊藤公平塾長とユヴァル・ノア・ハラリ氏が対談

3月16日、三田キャンパスにて、『サピエンス全史』の著者であるユヴァル・ノア・ハラリ氏を迎えて、「AI時代の人間の尊厳～新たな『NEXUS』を展望する～」と題した特別対談が行われました。会場には、一貫教育校の生徒や塾生、教職員など約200名が集まり、熱気あふれる議論が繰り広げられました。



矢上キャンパスに新拠点YILが誕生

4月10日、矢上キャンパスに研究と交流の拠点「Yagami Innovation Laboratory (YIL)」が開所しました。

学内外の人々が集い、議論し、挑戦する場として、慶應義塾が掲げる「未来のコモンセンスをつくる研究大学」を実現する拠点となっています。



YIL 1F 「SHOWCASE PICNIC」

ロサンゼルス・ドジャース 佐藤弥生君が登壇

3月17日、三田キャンパスに、ロサンゼルス・ドジャースでアジア・パシフィック部門のディレクターを務める佐藤弥生君（文学部卒業）を迎えました。

伊藤塾長との対談では、国や文化の壁を越えて挑戦を重ねてきたキャリアや、「越境力」を支えるマインドセットの秘密について語されました。



「大阪・関西万博」開催

4月13日から184日間にわたって開催された「大阪・関西万博」には、慶應義塾の教員・塾生・塾員が多数参加しました。

日本政府館ファクトリーエリアでは、田中浩也教授（環境情報学部）による「双鶴」共創プロジェクトが、循環型社会に向けた新たな視点を提示。江田俊介君（政策・メディア研究科修士2年）の映像作品も万博会場2カ所で上映され、多くの来場者を引きつけました。また、宮田裕章教授（医学部）は「静けさの森」や「Better Co-Being」を通じて、人・社会・自然のつながりを見つめ直す場を創出しました。

慶應義塾から生まれた多彩な挑戦が、世界に向けて未来のビジョンを発信しました。



イータHヴィレッジに 双子のヤギが仲間入り

5月29日、湘南藤沢キャンパス（SFC）内の国際学生寮「Hヴィレッジ」に、塾生発案の「ヤギプロジェクト」により双子のヤギが入寮しました。

除草の悩みをきっかけに始まったこの企画は、ヤギの誘致からクラウドファンディング、小屋の建設まで、塾生が主体となって進められ、温かな反響を呼びました。



日吉キャンパス藤山記念館が 新たな交流の場に

5月8日、日吉キャンパスの藤山記念館がリノベーションを経て新たな姿に生まれ変わり、記念セレモニーが開催されました。

歴史ある建物の趣を残しつつ、塾生や教職員が集い、音楽や食を楽しみながら交流の輪を広げる「人間交際」の場として、新たなスタートを切りました。



最大123人を収容する「SAJI THEATER」。大扉には慶應の森で育った杉を使用

夏の高校野球神奈川大会で“慶應対決”が実現

7月12日、第107回全国高等学校野球選手権神奈川大会の2回戦にて、慶應義塾高等学校（塾高）と慶應義塾湘南藤沢高等部（SFC高等部）が、夏の高校野球神奈川県大会としては史上初めて対戦しました。

会場のスコアボード上には2枚の塾旗が掲げられ、グラウンドでは同じグレーのKEIOユニフォームをまとった選手たちが躍動。スタンドからは「若き血」「ダッシュ KEIO」といった応援歌が交互に響き渡り、多くの義塾関係者が見守る中、記念すべき“慶應ダービー”が繰り広げられました。試合後には、両校の選手たちが健闘をたたえ合い、笑顔で握手を交わす姿も見られました。



ウルズラ・フォン・デア・ライエン氏に名誉博士称号を授与

7月23日、三田演説館にて、欧州委員会委員長を務めるウルズラ・フォン・デア・ライエン氏に対する慶應義塾大学名誉博士称号授与式が行われました。

式典では、未来を担う若者に向けた温かなメッセージが語られ、会場は大きな拍手に包まれました。



薬学部生考案「血糖値ガパオ」が全国の食堂で提供

6月、薬学部1年生が授業で考案した健康メニュー「血糖値ガパオ」が全国の社員食堂などで約900食提供されました。

糖尿病予防を意識したバランスの良さが評価され、塾生たちは食を通じた社会貢献の意義を実践的に学びました。



終戦80年、戦争の記憶を次世代へ

2025年は、太平洋戦争終結から80年となる節目の年。慶應義塾では、残された資料を通じて戦争の記憶を伝える二つの企画展を開催しました。

慶應義塾史展示館では特攻隊員・上原良司とその家族の歩みを、慶應大阪シティキャンパスでは塾生や幼稚舎生の資料を通して、“モノ”が“人”に何をつなぐことができるかを考えました。



新旧・塾生代表による塾長訪問

10月1日、全塾協議会の塾生代表に就任した岩切太志君（経済学部3年）と前・塾生代表の内田光紀君（理工学部3年）が、伊藤塾長を訪問しました。

大学における自治組織の意義や課外活動のこれからについて意見を交わし、学生生活のさらなる充実に向けた思いを共有しました。



オープンキャンパス～学生生活編～開催

8月5日・6日には、三田キャンパスにて「オープンキャンパス 2025～学生生活編～」が開催され、約2,500名が来場しました。

大学説明会や在学生懇談会に加え、メディアセンターや三田演説館の特別公開も行われ、夏空の下、三田キャンパスは未来の塾生たちの活気に満ちた2日間となりました。



卒業5年塾員招待会を三田キャンパスで開催

9月20日、三田キャンパスにて卒業5年塾員招待会が開催され、1,000名を超える卒業生が集いました。塾歌斉唱で幕を開け、最後は「若き血」で締めくくられたこの日の招待会では、友人との再会を喜ぶ姿が随所に見られ、会場は温かな雰囲気に包まれました。



ファード・ベニス氏に 名誉博士称号を授与

11月6日、三田演説館にて、エコール・サントラル・ナント名誉教授ファード・ベニス氏に対する慶應義塾大学名誉博士称号授与式が行われました。

両校は理工学分野を中心に長年にわたり交流を重ねておらず、今後も協力関係のさらなる発展が期待されています。



第714回三田演説会 ——小幡篤次郎に学ぶ

12月16日、三田演説館にて第714回三田演説会が開催され、西澤直子慶應義塾福澤研究センター所長・教授が登壇しました。

当日は塾生をはじめとする多くの来場者が、『学問のすゝめ』初編の同著者・小幡篤次郎の人物像やその功績に耳を傾けました。



「健康医療ベンチャー大賞」 リーグ決勝戦を開催

10月18日・19日、日本初の医学部主催ビジネスコンテスト「健康医療ベンチャー大賞」のリーグ決勝戦が開催されました。

記念すべき10周年を迎えた今大会は、全国の112チームから応募が寄せられ、未来の医療を切り開くアイデアと情熱がぶつかり合う、熱気あふれる2日間となりました。



今大会から「学生ピッチプラッシュアップ・交流会」も開催

志木高蹴球部、悲願の花園へ

11月15日に行われた第105回全国高等学校ラグビーフットボール大会埼玉県予選で、61年ぶりに決勝進出を果たした志木高蹴球部が見事初優勝を飾りました。長年の努力が実を結び、創部以来初めて全国大会「花園」への切符をつかんだ今大会は、チームにとって新たな歴史を刻む一歩となりました。



逆転勝利を収めた喜びの瞬間（撮影：田口恭子）